

平成 19 年 度 教 育 研 究 業 績 書

氏名 大谷 麻美

最終学歴	2004年9月 お茶の水女子大学人間文化研究科国際日本学専攻博士後期課程修了			
取得学位	博士（人文科学）			
所属学会	大学英語教育学会、日本英語コミュニケーション学会、お茶の水女子大学日本言語文化学研究会、日本語用論学会、The Asian Association of Teachers of English as a Foreign Language、The Japan Association for Language Teaching、Canadian Association for Japanese Language Education、International Pragmatics Association			
現在の専門分野	社会言語学 英語教育			
研究課題	日・英語コミュニケーションにおける対人関係機能の対照分析			
【研究上の特記事項】 平成18年～19年度科学研究費補助金（若手研究（スタートアップ））課題番号18820050 「日・英語の謝罪と感謝の談話特徴と話者心理」研究代表者				
【教育上の特記事項】 CALL機器を用いた実用英語のための授業実践。 低学力学生の実態調査				
【学内活動】（学内職歴を含む） 教務委員、奈良大学FD委員会委員、情報処理センター運営委員、 庶務委員、海外語学研修委員、図書館委員、教養部GP検討委員、女子バレーボール部顧問				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学術論文）				
「異文化間コミュニケーションにおけるtopic-shift - 何がミスコミュニケーションを引き起こすのか - 」	単	2007.12	『日本英語コミュニケーション学会紀要』16巻第1号	日本人とアメリカ人との会話のtopic-shiftの行い方の違いを調査した。
「対人関係を築くための異文化間コミュニケーション教育 - その現状と課題 - 」	単	2008.3	『奈良大学紀要』第36号	日本の英語教育において、コミュニケーションスタイル、特に対人関係の価値観と関わるスタイルの観点が欠けていることを指摘した。
「謝罪はどのように遂行され、どのように解釈されたのか 英語の謝罪談話のケーススタディー」	単	2008.3	『社会言語科学会第21回大会発表論文集』	平成18年～19年度科学研究費補助金による研究の成果。英語の謝罪談話の分析より、英語の謝罪行為の特徴を明らかにした。

(学会発表)				
Topic-Shift in Intercultural Communication	単	2007.7	10th International Pragmatics Conference: Symposium Intercultural Communication between Native and Non-native Speakers: Japanese and English Conversation Management Strategies and Rapport Development Goteborg, (Sweden)	日・英語母語話者間の会話で、topic-shiftの行い方の相違からどのように誤解が生じ、結果として対人関係の構築にどのように影響を及ぼしているかを明らかにした。
「低学力学生に対しての大学英語教育再考 - 低学力の実態と異文化への気付き - 」	共	2007.9	第46回大学英語教育学会全国大会 於：安田女子大学（津田早苗、村田泰美、重光由加との共同研究発表）	英語の低学力学生が、中・高の過程のどこで、なぜつまづいたのかをアンケート調査と学力調査より明らかにした。
「謝罪はどのように遂行され、どのように解釈されたのか 英語の謝罪談話のケーススタディー」	単	2008.3	社会言語科学会第21回大会	平成18年～19年度科学研究費補助金による研究の成果。英語の謝罪談話の分析より、英語の謝罪行為の特徴を明らかにした。